

第5回 著作権教育実践応募事例に関する選考委員コメント

新潟県 長岡市立上組小学校

人の作品、まねしていいの？ 著作権について考えよう
～体験した活用場面をもとに話し合うルール作り活動を通して～

- ・ 教員が同じ意識のもとで指導をすることを目指したことはとても大切であり評価する。教員の温度差で生徒の著作権に対する意識レベルに違いが出ては大変な問題である。
- ・ 著作権はそもそも法律でルールであることから、「ルール作り活動」は有効。「ピクトグラム」が著作物にあたるかどうかは、置いておいて、図画工作科との連動は効果的である。さらに、高次の合理的判断を養うとして、判断の根拠を述べる場を設定したのは、法律がカバーしていない部分を考えさせるのに大変有効である。
- ・ 著作権教育は、情報化の影の部分と捉えられがちであるが、光の部分にかかわる経験を通して、その必要性を子どもたちに考えさせている手法がたいへん良い。ピクトグラム看板作りにより、著作権者の立場で考えているため、切実感を持って取り組んだ姿が伝わってくる。独自の「情報教育で目ざす児童像」が設定され、学校体制で取り組んでいることも他校の参考になると思う。
- ・ 学校全体の取り組みとして自校版教材を開発し、研修にも使い多くの教員が共有できるのは素晴らしい。ただ、説明内容をもう少し分かりやすい文章にすることも大切。
- ・ 考えて行動するという指導実践のねらいは的確であり、他の参考となると考えられる。新学習指導要領における道徳科での情報モラル指導実践に先鞭をつけた点も評価できる。
- ・ 子ども同士で話し合いをさせていることは大変よいことである。
- ・ 授業のイメージがわかるものをもう少しほしかった。
- ・ データが豊富で指導案の内容にも説得力がある。
- ・ 自校版：情報教育で目指す子どもの姿の表がとってもわかりやすくてよい。
- ・ 学校全体で情報教育に取り組み、そのカリキュラムに位置付いている。
- ・ 図工作品での体験から著作権の心情に、自然に流れる優れた実践。
- ・ 子どもたちが自分たちで著作権のルールをつくることで、自分のこととして考えることができる。
- ・ 体験を重視し、権利者の心情を考え、道徳的な視点から指導している。教え込むのではなく子ども自身が考え、実践を重ねるといった考え方は共感できる。
- ・ 著作権について心情面からせまり、怒り度メーターなど、数値化して表すなど、工夫が素晴らしい。また、実践だけではなく、それを数値化し、しっかり分析しているのが素晴らしい。引用、参考文献もしっかりしている。